

⑪実用新案公報(Y2) 平2-43883

⑫Int.Cl. 5

D 01 H 9/16
B 65 H 67/06
D 01 H 9/18

識別記号

庁内整理番号

Z 8826-4L
C 7030-3F
C 8826-4L

⑪公告 平成2年(1990)11月21日

(全7頁)

⑬考案の名称 管糸の尻糸切断カツタ

⑪実 願 昭61-148310

⑪公 開 昭63-56274

⑪出 願 昭61(1986)9月27日

⑪昭63(1988)4月15日

⑫考 案 者 三 納 宏 明 石川県石川郡野々市町住吉町11番28号

⑫考 案 者 松 岡 孝 治 石川県金沢市泉本町5丁目29番地

⑪出 願 人 株式会社ムラオ・アン 石川県金沢市泉野出町2丁目21番9号
ド・カンパニー

⑫代 理 人 弁理士 松田 忠秋

審 査 官 西 川 恵 雄

1

2

⑬実用新案登録請求の範囲

1 管糸を搬送するためのコンベアの終端下方において、該コンベアのはば全幅にわたって往復移動する横行部材と、該横行部材に対向する固定部材と、該固定部材に搭載したはさみ装置とからなり、前記横行部材は、前記固定部材に対向する前方側にく字形のスロープを形成するとともに、先端を前記コンベアの終端から突出せしめ、前記固定部材は、前記スロープに対向するV字形の切込みと、該切込みの最奥部に形成した糸案内溝とを有する一方、前記はさみ装置は、前記固定部材に固着した固定刃と、前記横行部材の前後動によつて揺動せしめられる可動刃とを備え、重点が前記糸案内溝の直上を移動するようにしてなることを特徴とする管糸の尻糸切断カツタ。

2 前記はさみ装置は、前記横行部材の前後動によつて揺動せしめられる中間部材を有し、該中間部材と前記可動刃とは、ばねを介して連結してあることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の管糸の尻糸切断カツタ。

考案の詳細な説明

産業上の利用分野

この考案は、紡績工場において、精紡機とワインダとを連結する管糸搬送システムに組み込み、精紡機からワインダに搬送される管糸、または、

ワインダから精紡機に返戻されるボビンの尻糸を切断し、コンベアによる管糸またはボビン(以下、単に、管糸と総称する)の搬送を円滑ならしめるための、管糸の尻糸切断カツタに関する。

5 従来技術

紡績工場においては、精紡機とワインダとの間をコンベアによって連結し、精紡機からワインダへは、精紡機によって巻き上げられた満管ボビン、いわゆる管糸を搬送する一方、ワインダから

10 精紡機へは、空きボビンを返戻し搬送することが行なわれる。而して、ワインダにおいて糸が巻きほどかれ、空きボビンとなつて精紡機へ返戻されるボビンは、その表面に全く糸が残留していない完全空きボビンであるのが原則であるが、実際に15は、ワインダにおける糸の巻きほどき上のトラブルや断糸事故が避けられないため、まだ、残糸が残つている状態のボビン、いわゆる豆玉の状態の不完全空きボビンも多く混在するのが実情である。

かかる管糸、または、豆玉状態の不完全空きボビンは、コンベアによる搬送の途中において、管糸上の糸がほどけることがあり、このほどけた糸が、他の管糸や、コンベア装置の一部に絡み付くことによつて、往々にして、管糸の円滑な搬送を25 阻害するおそれがあるものである。

このような事態の発生に対処するための一方策